

## 歯周病と糖尿病

前回に引き続き、今回も、歯周病と全身疾患、特に糖尿病との関係についてお話しします。

歯周病は以前から、糖尿病の合併症の一つといわれてきました。糖尿病の人はそうでない人に比べて歯周病にかかっている人は多い、という調査が数多く報告されています。

その詳細な仕組みは解明されていませんが、血糖値が高い状態が続くと、体の免疫機能が低下してさまざまな感染症にかかりやすくなったり、糖分を多く必要とする歯周病菌が増殖しやすくなるためと考えられています。

さらに最近、歯周病になると糖尿病の症状が悪化するという、逆の関係も明らかになってきました。つまり、歯周病と糖尿病は相互に悪影響を及ぼしあっていると考えられるようになってきたのです。

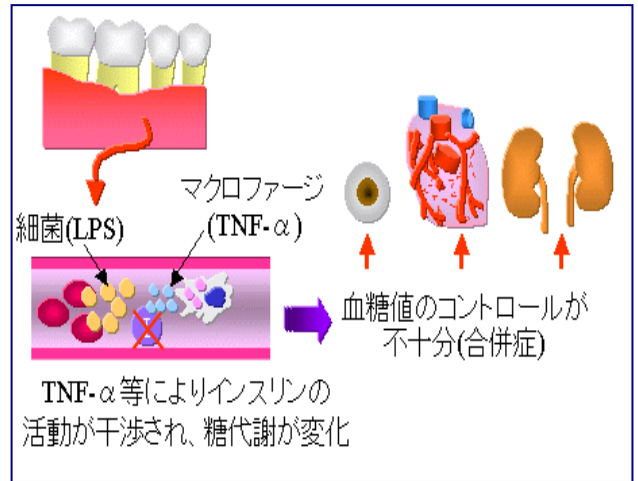
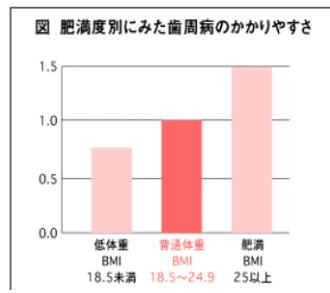
歯周病が糖尿病だけでなく、その前段階といえる「肥満」とも密接な関連があることがわかってきました。

ある調査によると、肥満者は普通体重者に比べ約1.5倍歯周病になりやすいことがわかりました。

肥満の人の内臓脂肪には「TNF- $\alpha$  (腫瘍壊死因子)」という物質がたくさん発現しています。この物質は炎症反応を活発化させるのに重要な役割を果たしています。

つまり、肥満の人は、常に体内が炎症状態にあるといえます。こうした場合に何らかの感染症にかかると、さらに全身の炎症がひどくなるとみられています。

歯周病も感染病なので、より炎症が悪化するというわけです。



歯周病が糖尿病に影響を与えるメカニズム

歯周病が糖尿病に影響をあたえるメカニズムとしては、歯周病菌の死骸が内毒素を撒き散らすことが考えられます。

血液中の内毒素は脂肪組織や肝臓からの TNF- $\alpha$  の産生を強く推し進めます。

TNF- $\alpha$  は、血液中の糖分の取り込みを抑える働きもあるため、血糖値を下げるホルモン(インスリン)の働きを邪魔してしまうのです。

インスリンの働きが悪くなると、血糖値が下がりにくくなります。TNF- $\alpha$  の分泌を活発にすることで血糖値のコントロールを悪化させ、結果的に糖尿病の発症につながる可能性があると考えられるのです。

歯周病を合併した糖尿病の患者さんに、抗菌薬を用いた歯周治療を行ったところ、血液中の TNF- $\alpha$  濃度が低下するだけでなく、血糖値のコントロール状態をしめす HbA1c 値も改善するという研究結果も出ています。

歯周病の予防、治療はからだ全体の健康管理につながっているのです。

